Q 資源回収案内がPTA会長と校長の連名の考えは

A PTA活動に協力している立場から問題ない



小林 真（こばやし まこと）

映像はこちらから

取り組む「第二市役所」的機能の市民団体があったら協働できないか。

A かたち変わっても思いは同じ。そういう団体が出てきたら考えたい。

●桜復活プロジェクトとコモン

Q 唐沢の桜は昭和初期に市民が植えた。用水路沿いのようなコモンの場所に市民が植えた桜は対象か。

A 今回、市の経費でやるのは公共施設。ほかの桜は今後考えていく。

●アウトレットの現状、発信、歴史

Q 現状、成果をどう発信しているか。

A 税収等企業情報が多く、発信の在り方について検討が必要である。



2021年暮れ、建設が進む花園拠点。いまや「歴史」の一コマだ

Q 任意団体PTAへの保護者や教員の加入、活動への参加は任意か。

A 加入、活動への参加は任意と、校長会等で周知している。

Q 市内小中学校で、ボランティア参加型のPTAの状況は。

A ボランティア形式が3校、一部ボランティア募集の学校が3校。会員の中から、その都度募集している。

Q 病気や障害、仕事で活動に参加できないことは少なくない。参加しない自由をうまく保障できないか。

A それぞれの事情に、柔軟に対応するよう校長会等を通じて周知している。活動のあり方は各PTAが自主的に決定してほしいが、教育委員会も必要な助言や情報提供を行う。

Q PTA、自治会等で活動への「温度差」は大きく、他団体の情報も得にくい。公平さが求められる自治体は対応が難しいこうした課題に

Q 校外活動の安全確保に向けた計画や確認状況について

A 小中全29校に校外活動の安全確保の点検を指示した



茂木 一郎（もてぎ いちろう）

映像はこちらから

Q 令和8年3月16日に発生した辺野古沖の同志社国際高校の研修旅行中の生徒を乗せたヘリ基地反対協の船が転覆し船長と生徒の2名が死亡した事故を受け、文部科学省から校外活動の安全確保の徹底を求める通知が出されているが、市内小中学校の状況はどうか。

A 教育委員会では市内全29校に対して7月中旬までに校外活動の安全確保について点検を指示した。点検項目は「綿密な計画の作成、安全確認の徹底、引率教員の役割分担明確化、事前の安全指導の実施、緊急時連絡体制の確立等」である。現時点で全29校において自己点検は完了している。教育委員会としては、今後も児童生徒の安全確保を最優先に、教育的価値を保ちながら校外学習を実施できるよう、学校へ指導・支援を継続的に行っていく。

●出資を受けた企業の現状

Q アグリテックアワードで最優秀賞を受賞し出資を受けた企業の現状と活動実績を伺う。

A 株式会社レグミンは本社を市内に移し、自律走行型の農薬散布ロボットの開発及びそのロボットを使った農薬散布代行サービスを展開している。昨年度からは、市内企業とのフランチャイズ事業により市内での散布サービス面積を拡大しているほか、全国でのフランチャイズ事業の展開を進めている。TOMUSHIについては市内でのカブトムシ生産拠点の開設に向け調整を進めている。

教育基本法　第14条

1.良識ある公民として、必要な政治的教養は教育上尊重されなければならない

2.法律に定める学校は、特定の政党を支持し又はこれに反対するための政治教育その他 政治的活動をしてはならない。

文部科学省　初の適用

Q 桃井可堂（ものいかどう）先生の顕彰について

A 渋沢栄一翁が書いた資料などを紹介していく



八須 由憲（はちす よしのり）

映像はこちらから

Q 渋沢栄一翁自筆による「可堂桃井先生碑」（深谷市北阿賀野）の撰并書が発見され、深谷市に寄贈された。これを契機に桃井可堂を知ってもらう企画展や市の広報誌等での紹介はできないか。

A 碑文や桃井可堂に関する資料は、渋沢栄一記念館の「収蔵品展」やホームページで紹介するとともに、その情報をホームページや「広報ふかや」にも掲載していく。

●「桃井可堂郷土史料館」の活用

Q 史料館には、江戸で30余年にわたり教育に尽くし、幕末の世に新たな時代を目指した桃井可堂の書や中瀬地域の歴史的資料が展示されている。小中学校のラーケーション制度等で見学はできないか。（見学は予約が必要（048-587-2502））



桃井可堂先生の木像



可堂桃井先生碑

Q 渋沢栄一翁自筆による「可堂桃井先生碑」（深谷市北阿賀野）の撰并書が発見され、深谷市に寄贈された。これを契機に桃井可堂を知ってもらう企画展や市の広報誌等での紹介はできないか。

A 碑文や桃井可堂に関する資料は、渋沢栄一記念館の「収蔵品展」やホームページで紹介するとともに、その情報をホームページや「広報ふかや」にも掲載していく。

●「桃井可堂郷土史料館」の活用

Q 史料館には、江戸で30余年にわたり教育に尽くし、幕末の世に新たな時代を目指した桃井可堂の書や中瀬地域の歴史的資料が展示されている。小中学校のラーケーション制度等で見学はできないか。（見学は予約が必要（048-587-2502））

Q 深谷市の新規就農者はどのくらいいるのか

A 令和6年度が46人、5年度が44人、4年度が60人である



髙田 博之（たかだ ひろゆき）

映像はこちらから

Q 市内の農家はどのくらいいるのか。

A 市内の農業経営体は2194経営体である。

Q 就農希望の方への対策はどの様な事を実施しているのか。

A 個別のヒアリングを行い、農業経験の有無や農地の確保、栽培する作物の希望等伺いながら個々の実情に応じた案内を行っている。相談の中では就農に向けた計画作成の支援も行っており、大里農林振興センターと情報交換を行い、連携しながら対応している。補助金として、市独自の機械購入補助では新規就農者への補助率を手厚くしている。国の支援制度では、「経営開始資金」や「経営発展支援事業」の案内を積極的に行い、円滑にスタート出来るよう支援している。経営が軌道に乗るまでは、県やJA等とともに支援チームを編成し、継続したサポートも実施している。

Q 高崎市では新規就農者に対し100万円を支給し、さらに国からの補助金も支給されるとのことだが、深谷市も百万円を支給したらどうか。

A 現時点において、そのような補助金の支給は考えていない。

●小山川サイクリングロード

Q 大寄公民館を自転車の駅として利用活用したら良いのではないか。

A 小山川橋付近から本庄市内一の橋付近まであるが本ロードと周辺施設の連携により回遊性を高め、散策や観光等を引き出し、北部地区全体の「にぎわい」になる様努める。



新規就農者に100万円 ― 群馬・高崎市

出典　全国農業新聞　2026年7月24日号

新規就農者に100万円（高崎市）

〈ふかや市議会だよりは、CD版を発行しています。送付を希望される方は市社会福祉協議会（TEL573-6563）へご連絡ください。〉